

オオサンショウウオ（特別天然記念物）

所在地：地域を定めず

指定年月日：昭和27年3月29日

東城町内河川には、オオサンショウウオ（東城町一帯ではハンザキという）が多く生息している。

八幡地域では、田黒・菅・受原沿いの東城川や田黒川・保田川等で確認されている。

半分にさいても死なないほどの生命力があるということから、ハンザキとよばれるようになったという。

オオサンショウウオは、東アジア特産の動物で、現在地球上に生息する有尾両生類中最大で世界的に有名である。

中部地方から九州にかけて、山間の溪流に生息しているが、中国地方は特に著名な産地である。

オオサンショウウオの大きいものは、全長 1.5mに達し、外形は怪異であるが、性質はいたっておとなしく、水中の岩下やほら穴の中にひそみ、カニやサワガニなどを捕食する。オオサンショウウオの分泌する体液が、山椒の匂いがすることからサンショウウオの名が付いたといわれている。八幡地域には小型のプチサンショウウオも生息する。

